

LED開発秘話紹介

豊田西高生に名大・天野教授

青色発光ダイオード（LED）の開発で、二〇一四年にノーベル物理賞を受賞した名古屋大の天野浩教授が十八日、豊田市小坂町の市民文化会館で、豊田

西高校の生徒ら千五百人を前に講演した。照



高校生に向けて講演する天野教授＝豊田市小坂町の市民文化会館で

明器具やスマートフォン画面など身近な家電に使われている青色LEDの開発までの奮闘を語り「勉強する意味は人の役に立つこと」と話し掛けた。

天野さんは、LEDで人々の暮らしが豊かになると考え、学生時代から研究にのめり込んだと動機を説明。失敗を繰り返しながら、実験装置を手作りするなどして、困難とされた開発にこぎ着けたことを紹介した。生徒らに向け「偉い人の話を

うのみにしたり、根拠のない先入観であきらめたりしてはいけない。若い人には創造力がある。自分で考え、自分で行動することで、未来は切り開いていける」とエールを送った。

講演会は、理数系の教育に力を入れる「スーパー・サイエンス・ハイスクール」に文部科学省から指定されている豊田西高の事業の一環で実現した。

（岸友里）

平成29年7月19日（水） 中日新聞より

「この記事・写真等は、中日新聞社の承諾を得て転載しています」